



2019年3月3日(日) 11:00
南葵音楽文庫閲覧室(和歌山県立図書館内)

南葵音楽文庫
和歌山県立図書館内
和歌山市西高松 1-7-38
tel.073-436-9500



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Arthur_Honegger_1921.jpg

1. オネゲルとスナール社

- アルテュール・オネゲル (Arthur Honegger 1892-1955)
スイス国籍、フランスで活躍。フランス六人組の一翼を担う。
5曲の交響曲や《パシフィック 231》等の管弦楽曲によって知られる。
オラトリオ、バレエ、室内楽曲等にも充実した作品を残す。
ex. 《ダビデ王》《火刑台上のジャンヌ・ダルク》《クリスマス・カンタータ》 etc.
晩年は、第二次大戦、米ソ対立等により、人類と音楽文化の未来を悲観。
Cf. 『私は作曲家である』(音楽評論家ガヴォティとの対談を本にしたもの)

- オネゲルとスナール社
オネゲルの作品の多くはスナール社より刊行。
スナール室内楽シリーズにも、多数のオネゲルの作品が含まれる。
フランスの音楽雑誌『ルヴュ・ミュージカル』でさかんに広告。看板作曲家?

Piano

<i>Le cahier romand</i>	1923-2
<i>Chant de Joie</i>	1924-2
<i>Pacific 231</i>	1926-1
<i>La neige sur Rome</i>	1927

Chant et piano

<i>Trois poemes</i>	1921-2
<i>Six poesies</i>	1924-1
<i>Judith</i>	1925-2
<i>Trois chansons</i>	1927-1

Violon et piano

<i>Deuxieme Sonate</i>	1924-2
------------------------	--------

Ensemble

<i>Rhapsodie</i>	1923-1
------------------	--------

・『ルヴュ・ミュージカル』とオネゲル

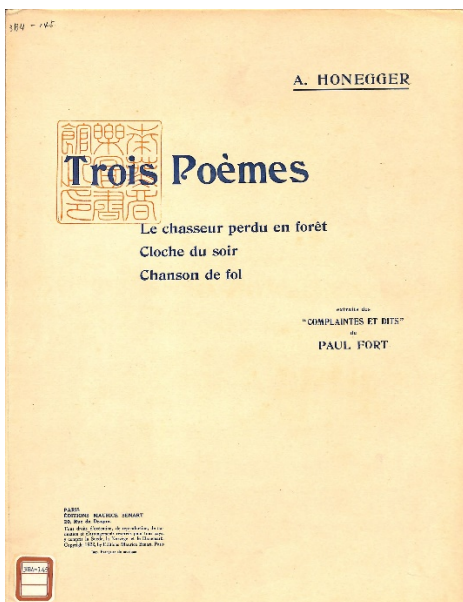
1922年1月号に、ルネ・シャリュ（René Chalupt）がオネゲル論を執筆。
同号には、付録としてオネゲルの作品二篇が掲載される。

- 1) 《ピアノのための小品》
- 2) 歌曲《森の中で道に迷った狩人》（ポール・フォール詩）

この二曲は、のちにスナール室内楽シリーズとして出版。

- 1) ピアノ曲集《ロマンズの音楽帖》 *Le Cahier Romand*（1921-23年作曲）
 - 2) 歌曲集《ポール・フォールの3つの詩》 *Trois Poèmes de Paul Fort*（1916年作曲）
- [●ミニレクチャー「オネゲルとスナール (2)」2019年6月2日]

2. オネゲル《ポール・フォールの3つの詩》 *Trois Poèmes de Paul Fort*



初期の作品のひとつ。以下の3曲からなる。

- | | |
|----------------|----------------------------|
| 1. 森の中で道に迷った狩人 | Le Chasseur perdu en forêt |
| 2. 暮れの鐘 | Cloche du soir |
| 3. 道化の歌 | Chanson de fol |

1916年の8月（第1曲）、10月（第2曲）、12月（第3曲）に、パリで作曲。詩はいずれもポール・フォールの詩集『嘆き歌と物語詩』 *Complaintes et dits*（1913年）から。

※ここでは、堀口大學〔後述〕が歌詞を訳している第1、第2曲を取り上げる。

・第1曲〈森の中で道に迷った狩人〉

ドイツ・ロマン派風のテーマ

森の中での狩り、角笛、馬に跨った骸骨…… 「死の舞踏」、「死霊の狩り」 etc.
このテーマに対する皮肉な距離感

「眠ってしまう角笛」「陽気な狩人」「急いでお帰り！」……

詩のテーマと音楽

ピアノ伴奏に出てくる ①角笛、②馬の歩調 [●譜例]……詩の舞台を表現
噛み合わない①と②……皮肉な感じ
曲の終わりの静けさ……「血の池の嘆きの声」

※この第1曲のみ、のちに管弦楽伴奏版が作られた。

Le Chasseur perdu en forêt

Paul Fort

Quand le son du cor s'endort,
gai chasseur ne tarde ! —
Déjà les sentiers regardent
avec l'oeil creux de la mort
passer l'avalanche
des hauts chevaux sous les branches.

Cavalier, quel beau squelette
en fourche ta bête
Adieu chasse, adieu galops ! —
Alors s'éveille indistincte
puis s'enfle la plainte
de l'étang rouge aux oiseaux.

森の中で道に迷った獵人

ポオル・フオオル／堀口大學訳

角笛の響(ひびき)が眠つてしまつたら
陽氣な獵人(かりうど)よ、急いでお歸り！
——「死」のやうな空(うつろ)な眼(まなこ)で
早くも徑(こみち)を眺めるのだ
枝をくぐつて雪崩(なだ)れるやうに
馳せる大きな馬の姿を。

騎士よ、お前の馬には、
何と立派な骸骨が跨つてゐる事だ？
左様なら、狩よ！ 左様なら、驅歩(ガロ)よ！
——折も折とて鳥の住む血の池の嘆きの聲が
かすかにめざめて、
ああ、やがて深まざる。

[昭和三年四月二十日、第四回三瀧牧子獨唱會]

I. - Le chasseur perdu en forêt

Animé

PIANO

狩りの角笛

馬の歩調

The image shows a piano score for the first movement of 'Le chasseur perdu en forêt'. The score is in G minor (one flat) and 3/4 time. It is marked 'Animé' and 'PIANO'. The first part of the score, from the beginning to the first measure with a 'p' dynamic, is bracketed and labeled '狩りの角笛' (Hunting Horn). The second part, starting with the 'p' dynamic, is bracketed and labeled '馬の歩調' (Horse's Gait). The score includes various musical notations such as triplets, slurs, and dynamic markings.

• 第2曲《暮れの鐘》 Cloche du soir

詩情に満ちた夕暮れの情景。

ピアノ伴奏における鐘の音の表現 [☛ 譜例]

ドビュッシー(歌曲《夕暮れ》)、セヴラック(歌曲《復活祭明け》)の影響

「この歌曲は3曲の中で最も長い、そしてまたオネゲルが偉大なオラトリオ作曲家* であることを彷彿とさせる歌曲である。まず非常に穏やかな宗教的な詩を選択している。またそれだけでなく、音楽のフレーズの作り方に二長調による祈りの尊厳をもたらしている」(フランソワ・ル・ルー『フランス歌曲の珠玉』p.239)

* オネゲルは《ダビデ王》(1921/23年)、《火刑台上のジャンヌ・ダルク》(1935年)の作者である。

Cloche du soir

Paul Fort

Ah! Ce soir là vraiment tout était si paisible
que le Champ du Repos était sur le chemin,

et l'Angélus du soir d'une cloche invisible
croisait deux beaux sons clairs
sur le front des humains.

La lumière de l'ombre
et ce halo de lune,
Les sons de l'Angélus et leur mystique appel
versaient des charités dans l'âme
O crepuscule, un petit cimetière
ouvre une heure éternelle!

l'Angélus va mourir
que dis-je il est encore
c'est lui qui tremble au bord de ce nuage d'or

c'est lui qui tremble aussi dans le signe de croix
que font ces deux rayons d'argent
croissant leurs voies.

Ah! Ce soir là mourut de l'éternel bonheur
que le champ du repos offre sur le chemin

et l'Angélus mourant vint
planter sur mon cœur
sa blanche croix mystique et signa mon destin.

暮れの鐘

ポール・フォオル／堀口大學訳

ああ！ その夕（ゆふべ）、ものなべていと静にて、
わが行く径（みち）のかたはらに墓地はありけり。

何所（いづこ）ともなく見えざる鐘の鳴り出（い）でて
朗（ほがら）かに二つの音（ね）をば交しみぬ
もろ人（びと）の額（ぬか）をかすめて。

ほのかなる影の明るさ、
さてはまた月におく暈（かき）、
鐘の音や、神秘めくその招きの聲や、
ものみなは人の心にやさしさを満たすなりけり。
おお、夕暮よ！——小さき墓地の
如何に久遠の時をひらくよ

鐘の音は消え行きて。
否、あらず、なほも残りて。
かの金（きん）いろの雲の邊（へ）にわななきて。

空（そら）はしる銀（ぎん）いろの光のすぢの作りなす
十字架にまつはるに。

わが行く径のかたはらの墓地が捧ぐる
久遠なる幸（さち）により、ああ、その夕は夜となり、

消え行く鐘はわが胸に
眞白（ましろ）なる十字を彫み
かくてわがさだめ定（きはま）る

[昭和三年四月二十日、第四回三瀧牧子獨唱會]

Modérément

p calme

Ah! ce soir là vraiment tout é -

p

laisser vibrer

3. ポール・フォール、堀口大學、三瀧牧子



ポール・フォール (Paul Fort 1872-1960) はフランスの詩人。象徴派の影響下に出発し、リュネ・ポーらと「芸術座」(のち「制作座」)を立ち上げ、メーテルランからの象徴派演劇を舞台にかけたが、のちに象徴派から離れ、より平明で庶民的な作風に移行した。一連の『フランス風バラード』*Ballades françaises* によって知られる。『フランス風バラード』の諸篇には、ピエルネ、カブレ、ゴベール、ジャック=ダルクローズ、デュティユーらが曲をつけている。

https://fr.wikipedia.org/wiki/Paul_Fort#/media/Fichier:Paul_Fort_1922.jpg

堀口大學 (1892-1981 年)とポール・フォールとの出会いは、堀口のブラジル滞在期である 1921 年 8 月に遡る。堀口が自作の短歌の仏訳集 *Tankas* を刊行した際に序文を寄せたのはフォールである。堀口の『月下の一群』(1925 年)にはフォールの『フランス風バラード』が数多く含まれており、また堀口は 1934 年に『ポール・フォール詩抄』(第一書房)を世に問うている。しかし、上に掲げた二篇は『月下の一群』にも『ポール・フォール詩抄』にも入っていない。『堀口大學全集 第 4 巻』「未刊譯詩」の註によれば、これらは「昭和三年四月二十日、三瀧牧子第四回獨唱會」* のために訳されたものである。恐らく三瀧はこの「獨唱會」で、オネゲルの《ポール・フォールの 3 つの詩》から第 1、第 2 曲を歌ったのであろう。

* 『全集』では「第三回」とされているが、日付等から見て「第四回」の誤りと思われる。



https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/6/67/Horiguchi_Daigaku

『現代音楽大観』(1927 年)によれば、三瀧牧子(みつま まきこ)は明治三十四年生まれ。東京音楽学校神田文教場でピアノ並びに声楽を学んだが、当時の日本楽壇のドイツ音楽一辺倒の状況に飽き足らず、独学で近代フランス歌曲を研究。1925 年に来日したフランスのピアニスト、ジル=マルシェックスに認められ、楽譜を贈られる。1926 年にフランス歌曲のみによるリサイタルを開催。来日中だったフランスの詩人ヴィルドラック(Charles Vildrac 1882-1971)に激賞される。

堀口が訳した詩、ならびにリサイタルのプログラム等から見て、三瀧はフランス歌曲のオーソドックスなレパートリーに加えて、当時の最先端の歌曲を歌っていたことがわかる。たとえば 1927 年(昭和 2 年)5 月の「第三回獨唱會」では、ドラーシュ《インドの歌》第 2 曲、デュレー《動物詩集》(アポリネール詩)、サティ《私はお前を求める》*Je te veux* が取り上げられている。また、1930 年(昭和 5 年)5 月の「第五回獨唱會」で、三瀧はジャン・クラースの《三つのクリスマス》(*Trois Noël's*)を取り上げているが、これは 1929 年に作曲された作品で、1930 年 2 月にパリで初演されたばかりの新作であった。